派遣先所属　　福島県相双農林事務所　農村整備部　農村整備第二課　北部農地復旧担当
氏　　名　　君嶋　克一（きみしま　かついち）
派 遣 期 間　　平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

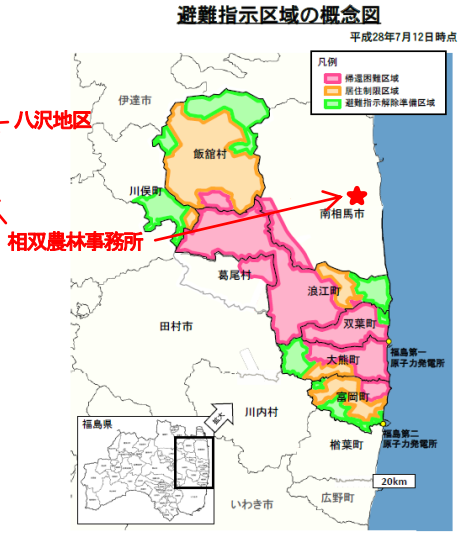
１　派遣業務の内容、現況

派遣先の相双農林事務所事務所では主に東北地方太平洋沖地震による津波被害で被災した沿岸部の農地、農業用施設及び海岸保安施設の復旧・復興に関する業務を福島県外派遣職員２２名と福島県職員６７名の合計８９名で対応しています。

特に沿岸部の農地では、地震による地盤沈下、津波による耕作土の流失や海砂・ガレキの堆積により、管内の農地２０，４７４haのうち５，２８２ha（約２６％）で農業が不可能な状況にありました。

比較的被害が軽少な農地については市町が農地の原形復旧や除塩を行い、原形復旧しても効率的な営農が行えない地域や、担い手の減少により効率的な営農が必要となる地域については県営によるほ場整備を行っています。

震災から５年８ヶ月が過ぎましたが、現状は広大な被災面積の一部分の整備が完了したに過ぎず、復旧が完了するまで農家の方の収入が無いため、一刻も早くほ場整備を完了が急がれています。



担当業務は、福島県相馬市と南相馬市にまたがるほ場整備地区『八沢地区』の工事監督員業務及びほ場整備等の設計・積算業務で、福島県職員２名と県外派遣県職員４名で分担しています。

八沢地区は、地区面積 372ha で明治時代に農地開拓で遠浅の海を干拓して出来た農地です。そのため、被災前から標高が海面よりも低くなっており、地区内の排水は大型排水ポンプで海に機械排水していました。地区の農地が地震による地盤沈下で最大１m沈下したため、機械排水が出来なくなり、これを機械排水出来る高さに農地の盤上げを行うこととしています。

ガレキで埋まった水田

津波により冠水した八沢地区

現況の八沢地区では用水源が丘上のため池に依存しており、水量に乏しく、しばしば用水に悩まされていたことも勘案し、このほ場整備により新たに６箇所の貯水池を設けることとしています。地区を縦断する幹線排水路から水をくみ上げ、一時貯水池に貯溜し、それを丘上のため池に圧送、用水を使用してもため池の水が枯渇しないようにするほか、各田んぼには省力化を図るため、用水パイプラインの設置を行い、蛇口をひねれば水が出てくる手動給水栓と水の管理を容易にする自動給水栓を設置する計画になっています。

現在、福島県の沿岸部の農地では目まぐるしいスピードで整備が進んでいますが、スピードが速い故に問題が多発しています。早期の営農再開を目指し、ほ場整備の計画が成熟する前から施工に入っているため、一部で区画整理は出来ても用水施設整備の進捗が遅れ、見た目では仕上がっていても営農できる状態にはなっていないところもあります。

また、福島県の沿岸部の農地全体に共通することですが、津波により浸食された農地は耕作土が流失しており、耕作土が無い状態です。耕作土は長年にわたり農家の方が土壌改良をして拵えた土ですので、なかなか代わりの耕作土を確保することが難しくなっています。更に農地の上には海砂・ガレキの体積があり、この撤去にも苦労をしています。震災直後では環境省の設置したガレキ処理プラントが存在していましたが、現在は閉鎖され撤去ガレキの処分先が無いような状況です。耕作土の確保とガレキ処理、用水施設の早期完成など課題は多いです。

水田に堆積した海砂

堆積土砂に含まれたガレキ

フル稼働する建設重機

営農が再開された水田

担当業務では、現場で施工業者の監督をするほか、工法検討や被災地関連工事の調整を行う事が主体で、打合せのため現場に向かうことが多く、地区の復興が着実に進んでいることが実感できます。

現場では農家の方と直接相対し、ともに使い勝手の良いほ場にするために図面とにらめっこしながら現場を走り回る毎日を送っています。

今年度には地区の一部ではありますが営農が再開され、この秋には美しい黄金色の稲穂が風に揺らめき、八沢地区では震災から実に５年ぶりの収穫を迎えることが出来ました。

しかし、まだまだ八沢地区を含め多くの農地では営農の再開がなされていません。時間の経過とともに農業をあきらめ、耕作を放棄する人も出てきています。

農家の方が元の暮らしに一刻も早く戻れるように引き続き福島県職員と派遣職員で力を合わせていきたいと思います。

震災から５年、壊滅的被害から立ち直り実りの秋を迎える八沢地区

２　復旧･復興状況や被災地での見聞・感想

現在、派遣職員として福島県で業務をしている方の中には、２回目の派遣の方が何人かいます。その方の話では、震災直後の相双農林事務所管内では夜の明かりがコインランドリーとコンビニぐらいだったそうですが、現在は商店街に様々なお店が出来き、夜も明かりが灯り街に活気があり、福島県は確実に復興に向かっているのだと実感出来たそうです。

しかし、まだ十全ではなく、引き続き支援の手が必要と感じました。